



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No. 12

2011.9.28 (No.2656)

第2560地区ガバナー／石本 隆太郎  
 会 長／山田 富 義  
 会長エレクト／杉山 幸 英 (クラブ奉仕A)  
 副 会 長／丸山 行 彦 (クラブ奉仕B)  
 幹 事／小出子 恵出  
 S A A／伊 藤 寛 一  
 会 計／明田川 賢一

例会日／毎週水曜日12:30～  
 例会場及び事務局／  
 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内  
 例会場／TEL 34-3311  
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp  
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/  
 (～はshiftを押しながら“へ”のキーを  
 押してください)

■本日の出席会員数:53名中38名  
 ■先々週出席率:88.68%

【ビジター】

伊勢原RC (神奈川) より  
 ・田中久也さん  
 三条北RCより  
 ・山上茂夫さん

【先週のメイクアップ】

[9.22] 三条東RCへ  
 ・高橋尚樹さん、佐藤純二さん  
 ・石橋育於さん、浅野金治さん  
 ・田中 仁さん、藤田紘一さん  
 ・小越憲泰さん、熊倉昌平さん  
 (8名)

[9.22] 燕RCへ  
 ・加藤紋次郎さん、田中 仁さん  
 [9.24] 第4分区IM (見附) へ  
 ・会田二郎さん、明田川賢一さん  
 ・荻根澤隆雄さん、樺山 仁さん  
 ・熊倉昌平さん、小出子恵出さん  
 ・近藤雄介さん、斎藤弘文さん  
 ・杉山幸英さん、高橋 司さん  
 ・西山徳芳さん、平原信行さん  
 ・丸山行彦さん、山田富義さん  
 ・渡辺勝利さん、渡辺 稔さん  
 ・渡辺良一さん  
 (17名)



「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」  
 2011～2012年度国際ロータリーのテーマ

「本成寺・鐘楼」



西山徳芳 会員より

会長エレクト挨拶

杉山幸英 会長エレクト



本日会長はお休みですので、代理で御挨拶申し上げます。

伊勢原ロータリークラブの田中様、三条北ロータリークラブの山上様、ようこそおいでくださいました。ごゆっくりお過ごしください。

本日早朝、山田会長より例会に出席出来ないかもしれないと、連絡が有りまして、又、

昼12時に例会欠席の連絡が有りました。会長挨拶に何をお話ししようと思いながら新聞を読んでおりましたら、9月28日の経済新聞新潟経済のページに、地域再生、として十津川村の集団移住の記事が有りましたので、その話をさせていただきます。一部新聞を読ませて頂きます。

「川がせき止められて湖が出来るなんて、まさに明治22年の十津川大水害と同じだ」と、北海道新十津川町の後木祥一さんは言われました。

十津川村は、皆様テレビ・新聞でご存じのように奈良県南



部で、和歌山県の隣りで、林業の盛んな村で、日本一大きい村です。林業が盛んと言うことは、温暖で雨の多い土地です。民家は十津川沿いに点々と集落が有り、洪水も多く、橋はほとんど吊り橋で、近年土木技術が良くなり、橋脚の有る橋も増えました。私も物好きで5月の連休に十津川村に在る谷瀬のつり橋を渡りに行ってまいりました。

十津川村は、122年前の夏、村を襲った豪雨で死者168名、村の人口の2割に当たる約3,000人が家や田畑を失い、路頭に迷いました。

十津川村の集団移住は、被災後わずか2ヶ月で2,489人が北海道に移住を決めました。スピード移住を可能にしたのは、政府の手厚い支援と指導層のリーダーシップの良さだそうで、現町長（新十津川町）は、短期で移住を決めた先人の決断力に感謝致しますと言っておられました。

集団移住の歴史は古く、三重県鳥羽市国崎町では、1498年に大津波で約10,000人が犠牲に成り、海辺から高台に移住しました。

500年たった今も海辺に民家はほとんど無く、津波の教訓により家は高台に建てるのがしきたりで、漁師も高台から浜に通うのが普通だそうです。

今回被災した奈良県や東北地方でも高台移住の話は出ているが、なかなか見えない政府の支援対策や市民の合意など問題は多いみたいです。

百年に一度の災害が頻発する今、百年後の子孫に感謝される町づくりを考える時ではないでしょうか、と結んで有りました。

## ニコニコBOX

伊勢原RC(神奈川) 田中久也さん

初めておじゃまします。本日はよろしく願い致します。

杉山幸英さん

山田会長本日休みで会長挨拶が回って来ました。心臓が飛び出しそうです。

船越正夫さん

先日の父の葬儀に対し、熊倉さんはじめ会員の皆様に大変お世話になり、ありがとうございました。

丸山行彦さん

先週のスマイルボックスでは、他の委員会の会田さんに手助けいただきました。ありがとうございました。

熊倉昌平さん

杉山さん、会長代理ご苦労様です。

小出子恵出さん

9月24日に見附市で開催されたIMに参加されました皆様、ありがとうございました。

樺山 仁さん

めっきり秋の風情となって来ました。

先週のIMでは、ロータリークラブの原点について改めて考え、勉強して来ました。

山田会長さん、本日はIMの報告です。よろしくお願ひします。

伊藤寛一さん

IM、参加ご苦労様でした。

荻根澤隆雄さん

24日、IMでカシミヤのベストを戴きましたので。

斎藤弘文さん

IM、お世話になりました。

木村文夫さん

先週末の灯り物語、鍛冶まつり、久し振りに中心市街地に人が集まり賑わいました。

小越憲泰さん

朝晩めっきり寒くなりました。健康には気をつけましょう。

若槻八十彦さん

秋らしく、気持ちの良い気候になりました。

松永一義さん

IMに出席できず、申し訳ありませんでした。

高橋 司さん、 会田二郎さん、 川瀬康裕さん

よいことがありました。

スマイルボックスに協力致します。

佐藤純二さん、 中村光一さん

都合により早退させていただきます。

申し訳ありません。

9月28日分 ￥28,000

今年度累計 ￥388,000



伊勢原RC(神奈川) 田中久也さん



三條北RC 山上茂夫さん



# 10月のお祝い

## ◎会員誕生祝

24日 佐野勝榮さん

## ◎夫人誕生祝

3日 五十嵐幸子さん (晋三さん)

21日 会田陽子さん (二郎さん)

## ◎結婚記念祝

2日 石橋育於さん (久子さん)

3日 五十嵐晋三さん (幸子さん)

10日 藤田紘一さん (幸子さん)

10日 高橋 司さん (恵子さん)

10日 田中 仁さん (真弓さん)

15日 浅野金治さん (ちか子さん)

15日 渡辺勝利さん (美代さん)

22日 斎藤真澄さん (千也子さん)

24日 松永一義さん (シゲミさん)

25日 熊倉昌平さん (恵子さん)

27日 佐藤純二さん (のぶ子さん)



## ◎100%出席賞

42年 熊倉昌平さん

## クラブ・フォーラム「IM報告」

### ◎杉山幸英 会員



お天気にも恵まれ、講演も素晴らしかったです。

アシスタントガバナーの挨拶でIMは自己を研ぎ、情報交換、そして親睦に有ります。1年に1回の情報交換と親睦を楽しく語り合えるIMに成りますようにと言われました。

又、クラブ会長の歓迎の言葉の中に、鈴木ガバナーエレクトの講演を通してロータリークラブの果たす役割を考えることは、地区のテーマ「自らの足元を見直そう・過去～現在～そして未来へ」に通じるものと考えますと陳べられ、石本ガバナーの地区の具体的運営方針の“7つのお願い”にそって、綱領の宣誓まで有りました。が、パストガバナーのお一人が主催クラブの開演挨拶で、皆さん楽しんで親睦を深めてくださいと挨拶された後、ただ親睦を深めるだけではだめだ、精神的親睦を深めなければならぬと否定されました。が、否定では無く、精神的懇親も加えていただきたいと願いますべきでは無かったのでは無いでしょうか？

又、本年度のガバナーは握手タイムは無しにしますと言っておられたのに握手タイムも行われました。ガバナーも嫌な顔一つされずに握手を行っておられました。当クラブの方でも会員は握手をする以上の関係でおられるのでは無いのか！と言っておられる方も有りました。握手をすることは悪いことではないが、強制するものでは無いと思います。

IM全体では一部会員紹介が良くないなと思いましたが、全体的には和やかなIMでした。

### ◎丸山行彦 会員



鈴木ガバナーエレクトの講演は中越地震の震災復興支援のお話でしたが、支援活動の内容も話方も立派でした。さすが次年度のガバナー、講演慣れしている方だなと思いました。

開会のセレモニーの中で他の会員からも指摘があったのですが、気になるがありました。

来賓・参加クラブ紹介のときですが、ガバナーやパストガバナーなど来賓は固有名詞で紹介したのですが、その後、参加クラブは時間の都合上一括で紹介しますとのことで各クラブの名前は一切言わず、参加いただいた各クラブの皆様とだけ紹介、立っているのやら悪いのやら分からず、ポツポツ立つ人が現れたら慌てて皆が立ち始めるという、しまらない紹介となりました。

いくら時間が無いといっても、地区大会の57クラブと違ってIMはたかが11クラブ全員紹介しても何分もかからないと思いますし、折角の休日に参加したのに一般の会員にはひとくくりで対応とは、失礼にあたるのではないかと思います。

### ◎渡辺良一 会員

博愛を広げるた!

鈴木重孝 第2560地区

ガバナーエレクトの講演

テーマ『震災復興から学んだこと  
～「奉仕」は恕の心』



1) 中越地震の復興支援の経験談  
復興支援は3年間に及んだ。

2) 行政が出来ないこともロータリー

の組織をフルに使えば出来ることがたくさんある。

3) 孔子の「恕の精神」。恕を以って和を成す。



子貢問(と)うて曰わく、一言(いちげん)にして以(もつ)て身(み)を終(お)うるまで之(これ)を行(おこな)うべき者(もの)有(あ)りや。子曰わく、其(そ)れ恕(じょ)か。己(おのれ)の欲(ほつ)せざる所(ところ)は、人(ひと)に(ほどこす)こと勿(なか)れ。

子貢が、「人として一生涯貫き通すべき一語があれば教えて下さい」と問うた。孔子は「それは恕、つまり相手の身になって思い・語り・行動することだ!」と答えたが、子貢には難しいと思ったのか、「自分が嫌いなことは人に仕向けるな!」と云った。

## 恕

ゆるす、おもいはかる、はかる。

恕とは如の心、即ち、一切を包容して進歩向上せしめんとする心のこと。

説文解字の心部には「仁なり。心に従い如を声とす」とあり、その言葉の通り恕は仁に近い。

ただ、仁と異なるのは中せんとする心、即ち「忠」の有無である。

大学に「仁人のみ能く人を愛し、能く人を悪む」とあるが、「恕」だけではこの「能く悪む」という部分の存在が欠如しているが故に、包容した上で向上せしめんとはしても、そこに甘んじてしまう者にとっては単なる愛と変わらなくなってしまふ。

論語に「夫子の道は忠恕のみ」とある所以である。

なお、恕は如+心であるが、如の字解には複数説ある。

如に関して説文解字の女部に「随ふなり。女に従ひ口に従ふ」とあり、この口において解釈が異なる。

一つは、口は折りを取める器の象形であるとして、巫女が神意をはかり、それに従うこととする説で、故に「如何」は問う意となり、「如し」はそれ“そのまま”という意になり、神意に近づく意から「如く」という。

もう一つは、口は領域・本分を示すという説で、所謂、国などに用いられる口と同じものとする場合である。

女の領域において男と必然的に異なるのは子を産むということである。

新たな生を育み、これを出すは造化そのままであり、故に「如し」は“そのまま”の意なり、新たに生み出すから「如く」となる。

そして、母の心は子に対する慈愛に満ち、子どもを包容して已まないから、心をつければ恕し、恕うもであるが、恕うに過ぎて律せざれば恕となる。

故に恕はすべてを包容し育むも、忠がなければ道を得ず、善悪兼ね入れて達するには至らない。

ここにおいて、家庭における父の存在、即ち、忠の必要性が認識される。

即ち、恕と忠は、影の形に添うが五徳にあるべきものなのである。

## 《意味》

- 1.自分の思うのと同じよう相手を思いやる。思いやり。「忠恕」
- 2.ゆるす。自分に引き比べて他人を寛大に扱う。また、同情して相手をとがめずにおく。「寛恕」「宥恕」。

「己の欲せざるところ、人に施す勿れ」

(おのれのほっさざるところ、ひとにほどこすなかれ)

自分が好まないことは、きっと他人も好まないことから、他人に向かって実行してはいけない。

出典：「論語一衛霊公」

子貢問、有一而可以終身行之者乎、

子曰、其恕乎、己所不欲、勿施於人

## ◎西山徳芳 会員



IMで見附ロータリーを訪問し、アトラクションで小栗山のお神楽舞を拝見してきて、とても印象深くめずらしい行事でした。

アトラクションの途中、2人組で頭と後ろ脚になり、お神楽の面をつけ唐草のかぶり物を被り笛と太鼓の神楽はやしに乗せ、舞台狭しと熱演するあまり、先頭の面側の演者が舞台から転落してしまうことがあった。

わたしの会社の取引先が見附にあり、「小栗山はもとは見附とは別の村で」この専務が以前に先祖が小栗山の村の村長をつとめたと聞いておりたずねてみた。

いわれは300年前ころ、仏道が衰退し人心が荒廃したことに、時の住職が観音に願をかけたところ、獅子頭をつけた3人が現れ、『補蛇落や



小栗山のお神楽舞



みねにかかれる雲晴れて 獅子まふ場の 月のさやけさ』と道歌に合わせて舞いはじめたとのこと。これを聞いた住職は大変歓喜し、その後法要のたびにこれを摸して舞うようになり、今に伝えられたと言われています。毎年、小栗山町で8月9・10日に奉納している、市の指定文化財になっている行事は獅子舞と神楽が交互に演じられ、獅子舞はこれだけで20分ほどかかる、IMの当日我々の見たものは、後半の獅子舞のみであった。

保存会は元市議の佐藤さんが会長で、取引先の工場長の高橋さんが世話方をしている、会員は16名ほどで、平成6年のふるさと創生事業の一環で、傷んでいた道具を保存に廻し、新たに福島県で新しい面を作り、これは紙を重ねて形にして、面に漆を施したいわゆる「干漆<sup>かんしつ</sup>」で、被っている胴体の生地はオリジナルのものは麻布で昔の蚊帳のように向こう側が透けて見えるものだった、今は同様な布を求めることが叶わず、いわゆる「唐草の風呂敷」様な胴かぶりを使っている。面には目玉の位置に小さな穴が開いて、口の開いた所にも隙間があり、そこから覗き見るのがやっとで、自分の脚元も見えない。本来2間の、真四角の神楽殿の上で演じられものを当日は縦が短く、横長の舞台上、しかも神楽殿では四本柱があり、これを演舞の目安の能の目付柱の働きで足さばきの目印として演じるのだが、常に動きを大きく見せるため、落ちてしまわないか何時も心配はしていたが、今回先頭の人が慣れた人でなく、ついに落ちてしまった。能楽師が舞台から転落すると、若い人は修業がまだ足りない、年寄は年にあわず動きが大きいといわれるそうです。

もともとは小栗山地区の家の長男が受け継ぐ舞でしたが、次第に舞子が少なくなり、一時途絶えたものを、復活させて現在に至っています。

平成7年に新潟小学校が県事業の「いきいきスクール」の指定を受けたことをきっかけに、地域の歴史や自然を学ぶ学習を取り入れました。そして平成8年には「獅子舞クラブ」が発足し、5・6年生が毎年小栗山不動院の舞台上で舞とお囃子を披露しています。新潟小学校の5・6年生が獅子舞を披露してくれますが中学になると卒業してしまう、やがて大人になった時に思い出してついでもらいたい事を願い、平成8年から小栗山の獅子舞保存会の協力を得て、先輩から後輩へと伝承しているそうです。

今度、衣装を昔のように外が透けて見える麻地で作成り、染めも特注し、視界が広く使いやすい面を作ることを市にお願いしているそうです。

## ◎渡辺 稔 会員

### 愛を広げるため



本日、時間調整の予備員としてIMの感想を話すように仰せつかりました。

何分事前の準備ができなかったので曖昧な記憶での話しなので細部に間違いがあるかもしれませんがお許しいただきたいと思います。

このIMで鈴木ガバナーエレクトの講演が一番感銘を受けました。

ガバナーエレクトは造園関係の仕事でアメリカに行かれた時に、その地域は大河があるため、何年かに一度は大きな洪水にみまわれる事があり、行政だけでなく地元ロータリークラブが災害時のために設備等（それも大型で近代的な）を整えていることに大きな感銘を受けておられ、ご自身が7年前の中越地震の際には対策の中心メンバーとして活動された経験からの思いを話されていました。その中で特に印象に残るのは「ロータリーは行政に使われるのではなく、行政を手足に使わなくてはだめだ。」ロータリーと他の団体の異なるのは、ロータリーはみんなの為に、特に地域の人達のためにならなくてはだめだ。

その為には災害時のボランティアを実践するための委員会をつくり、そこは単年度で変わるのではなく、少なくとも10年位の任期でやらなくてはいざという時にすぐに行動できない。聞いていて同じ思いを私自身も持ちました。しかし、その為の活動をしていくには自分の仕事を犠牲にしなければ無理であり、それは相当に難しいと思ってしまいました。

されど「ロータリーは行政を手足に使う存在たれ」はまったく同感です。

鈴木ガバナーエレクトの来年度のご活躍をととても楽しみに、ご期待しております。最後に資料がなにも無く途方にくれておりました私に、IMのパンフレットをくださった佐野会員に感謝を申し上げて終了とさせていただきます。



8月28日(日)に、中央公民館・大ホールで行われた、市内4RC合同社会奉仕事業「がんばろう日本!! 復興応援チャリティー寄席とフルーツコンサート」では、会場の入口に募金箱を設置し、ご来場の皆さまより182,122円の善意が寄せられました。

先週9月20日(火)、市内4RCの会長が三条市役所を訪問し、東日本大震災の影響により三条市に避難されている方々の支援に役立てていただこうと、寄せられた義援金を三条市へ寄付しました。



次週例会 10月12日 「米山月間」  
地区研修委員(米山奨学担当) 寺嶋一夫 様

次々週例会 10月19日 **クラブ休会**

